ハンドマイク街頭演説原稿例　臨時国会代表質問

二〇二三年十月二十八日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　秋の臨時国会が始まり、岸田首相の所信表明演説に対する各党の代表質問が衆議院と参参議院の本会議で行われました。日本共産党は衆議院で志位和夫委員長、参議院で小池晃書記局長が質問に立ち、国民の暮らしと平和を危機におとしいれている岸田首相の姿勢を批判するとともに、行き詰まった政治をおおもとから変える対案を示しました。しかしながら岸田首相は、日本共産党の具体的な提案をしっかり受けとめようとせず、まともな答弁すらしませんでした。日本共産党は、国民の声に応えようとせず、直面する危機を乗り越える意思も力もない自民・公明の政権を１日も早く終わらせ、新しい政治を実現するため、全力で取り組む決意です。皆さんのご支持、ご協力をよろしくお願いします。

　みなさん、物価高騰から国民生活をどう守るのかが、今国会の最大テーマです。国民を苦しめているおおもとには、「失われた３０年」とされる日本経済の停滞があります。この「失われた３０年」を乗り越えるために、日本共産党はこのたび「経済再生プラン」を発表しました。働き方、税制度と財政、エネルギーと食料の３つを柱にして、希望が持てる日本をつくるための改革案です。日本共産党の志位委員長と小池書記局長は、このプランについて岸田首相にそれぞれ国会質問をしました。

　志位委員長は最低賃金を全国どこでも１５００円以上に引き上げるため、大企業の溜め込み金である内部留保に期間限定で課税し、その税収を中小企業の賃上げ応援策にあてるやり方を提案しました。これに対して岸田首相は「２０３０年代半ばまでに１５００円を目指す」と繰り返すばかりでした。あと１０年以上も低水準で我慢せよというのは、あまりに無責任ではないでしょうか。

　小池書記局長は「マイナ保険証」の国民への押し付けをやめるよう求めました。また、深刻な危機に直面している農業の問題を取り上げ、生産者の緊急支援、食料自給率の向上の対策を要求しました。

　日本共産党の質問に対して岸田首相は、消費税減税の提案も、個人事業主など小規模事業者を苦しめているインボイス制度中止の提案も拒否しました。物価の急激な値上がりに見合った年金引き上げにも背を向けました。高すぎる学費や奨学金の重い借金返済に苦しむ若者が求める、高等教育無償化の提案も拒みました。未来を担う若者の願いに逆らう政治をこのままにはできません。

　日本共産党は国民のみなさんの願いにしっかりと応え、暮らしと平和を守り支える政治の実現へ、全力で取り組んでいきます。皆さんのご支持、ご協力をお願いします。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）